

「モルドバドキュメンタリー2011」第5号

発行日 2011年3月19日

発行人 モルドバ復興支援協会 事務局長 沓澤正明

住所 〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉3-2-35

電話 078-594-2785 Email molkor.jp@ybb.ne.jp

2011年8月27日はモルドバ共和国独立20周年記念日。私たちは1994年以来モルドバの復興支援活動を続けてきた。本年8月には独立記念イベントを日本とモルドバで計画中。侑霞先生の表紙絵の原画展も同時開催予定。

本年9月には川村容子さんの帰国報告会を東京・早稲田大学、京都、神戸、広島で予定。



「はばたく」 絵：侑霞

下から鰐、豚、山羊、あひる、鶏、蛙、鳥、クニ。豚にも山羊にも蛙にも羽根が描かれている。今にも羽ばたきそうだ。モルドバを侑霞はこのように表現した。

川村容子さんからのメール

地震後、いかがお過ごしでしょうか。美喜さんの親戚の方々が、東北にいらっしゃったと記憶しているのですが、ご無事ですらっしゃいますでしょうか…。心配です。

日本ことを（カザネスティ子供デイケア）センターのことももとても心配してくれています。何人かの子どもからライサさんに電話が来たそうです。

ライサさんは、友人らとモルドバで日本復興のための募金口座を開設されたそうです。

こちらヤシ（ルーマニアの地方都市、モルドバの古い首都）では、日本文化を教えるNGO団体とともに募金活動を行うことになりました。

私が道に立って募金を行おうかと思っていたところ、この団体の方々もちょうど募金活動をしようと思っていた、ということで企画することになりました。

この国では道に立って行うことはできないので、お店に募金箱を置くことになると思います。

募金してくれた人には折鶴をプレゼントしようと思っています。赤い羽根募金のからのアイデアです。

今日会議があったばかりなので、実現することになったらまたご連絡差し上げたいと思います。2011. 3. 17

サンタ Cloth カード展のDVD完成

昨年12月19日に京都市国際交流会館で開催された『サンタ Cloth カード展クリスマス会』のDVDが完成した。制作して下さったのは東京の映画監督石倉慎吾さん。

会場の展示物の様子や、ハンガリー人のギタリスト・エルノ・ローザさんと世界的に著名なハーモニカの奏者あらいなおさんの演奏がほぼ全曲録画されている。

主催者近史子さんと伊藤ひろ子さんの紙芝居「スター君の旅」も録画されている。

主催の近史子さん、共催の京都市国際交流協会の溝口さんと後援のモルドバ復興支援協会がDVDを保管しています。閲覧したい人はモルドバ復興支援協会にご一報。希望者には貸し出す予定である。

カザネスティ子供デイケアセンターへのプレゼント

サンタ Cloth カード展の売上金が全額、京都市国際交流協会を通じてモルドバ復興支援協会に寄付されていてことは周知さ

れているがこのほど、カザネスティ子供デイケアセンターにパソコン、テレビ、本となって届けられた。

届けられた時の画像はライサさんからメールで伝えられた。その後、どのように運用されたりしているか追って報告があると思われる。

カララシのサナトリウムでの思い出

2008年9月1日から10月10日までモルドバを訪問した。その時セミナーで「日本で地震が起きたら…」を話した。

日本はなぜ経済がいいのか

日本沈没に手を差し伸べるモルドバ

消えた米国人の心のわだかまり

マリア・ビッシュコンサート最終日

困難に直面した食事

容子さんが笑った。笑った。笑った。

2008年9月28日の手記全文。ディスカッションの時間にアメリカの経済が悪くなくても日本はいつも大丈夫なように見える。日本はなぜ経済がいいのかという質問が出た。

私は次のように答えた。カザネスティの校長に答えたのとは似てはいるが違った答え方をした。

- ・日本は1941年から1945年までアメリカと戦争をした。
- ・ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下された。日本はアメリカに負けた。
- ・しかし、アメリカは勝ったのに負けた日本を大切にしてくれた。復興を助けてくれた。
- ・だから日本人はアメリカ人が好きである。日米関係はとてもいい。
- ・そして、アメリカは太平洋の平和を守ろうとして朝鮮戦争とベトナム戦争で共産主義と闘った。
- ・たくさんアメリカの若者が二つの戦争で死んだ。
- ・その戦争をするためにアメリカは日本にたくさんのお金を投入した。そのアメリカの投入したお金で日本は復興した。戦争特需である。
- ・そのことを日本の若者は知らない。
- ・日本人はまじめに働いたからこんなに豊かになったのだと思っている。
- ・しかし、日本の経済はただ運がよかっただけでいつまで

も運がいいわけではない。

- ・私は日本の豊かさは外国のために使わないと運がなくなると思っている。
- ・日本では「日本沈没」という映画が何度も大ブレイクした。
- ・日本に大地震が発生して太平洋に日本列島が沈没するという映画である。
- ・今日本では 30 年以内に東海大地震が発生することがわかっていて、総理大臣をはじめ官公庁、国民が一体となって対策を立て、避難訓練なども始まっている。
- ・映画の中で日本はどこかパプアニューギニアあたりに広大な土地を買って移住することになっている。
- ・だから日本の経済がいつまでも豊かかどうかはわからない。

この話は大いに受けた。ライサさんはすかさず「モルドバは今、国民の半分位が外国に出稼ぎに出してしまって国内には土地と建物が余っている。そこに日本人に入ってもらるように政府にかけあってもいい。」と言った。

一番感動したのは米国人クンス氏らしかった。「今日の Mr. KUTSUZAWA の 15 分の話聞いて嬉しかった。一番よかった。はじめて日本人へのわだかまりが消えた。」と言ってくれた。

終わった。午後 3 時カララシをバスで出発した。途中美しい景色のところで記念写真を撮った。ライサさんに言われて気づいたが、バスに乗り込もうとする時足元に黒い大きな毛虫が 4 匹いた。これに触れると皮膚がかゆくなると思った。

今日はオペラハウスで「マリア・ビッシュコンサート」の最終日だった。沓澤美喜も私もそれを鑑賞したかった。しかし、認識不足だったのである。私はスーツを持ってきていなかったし、沓澤美喜もドレスアップすることは考えていなかった。ライサさんから「そんな服装ではダメだ。」と言われたのである。

ニーナ宅に戻ると、容子さんが食事がとっても困難であると言い出した。

- ・モルドバ人と日本人は身体の構造が違うようだ。
- ・私がおなか痛いで砂糖湯を飲みたいと言うと、ニーナさんがそんなのではダメだ、野菜サラダがおなかにいいと言って食べさせる。
- ・食事に出てくるものは何でも同じ油の味である。
- ・ノンオイルの食事が食べたい。
- ・ああ、明太子が食べたい。
- ・ああ、ご飯が食べたい。納豆があつたらいい。味噌汁が飲みたい。魚が食べたい。
- ・ああ、もう限界。食べ物が限界みたい。

こんなに弱りきっている容子さんを見るのは初めてである。私は毎日りんごを 3 個ぐらいかじっていた。庭にあるりんごは全然減っていない。どうなっているんだろう。いつでもりんごはたわわに実っている。確かに日に日にりんごは赤みが増えて大粒になっている。たった 1 本のりんごの木が私のおなかをいつだって満たしてくれる。もう 100 個以上食べている。あとパンとバターとコーヒーがあるのでそれをベースに油っこいモルドバの食事を取り入れている。

その日、私たちは話をした。

- ・旧ソ連時代に教科書の検閲をしていたという人のこと。
- ・心理学者のこと。
- ・3 日間ロシア語で語り続けていた女性のこと。
- ・サワ教授がいかに楽しそうにふるまっていたか。
- ・カララシのサナトリウムはとても美しいということ。
- ・カザネスティのこと。
- ・沓澤美喜がどんな発言をしたか。
- ・サナトリウムの敷地内のホールで行われていたフェスティバルに行くとライサさんが有名なジャーナリストでニューヨークタイムズの特派員だと言って紹介してくれた男性のこと。
- ・サナトリウムで受けたトリートメントのこと。

異文化の中で一緒に暮らすとどんなことが起こるのかを今体験している。異文化の中にユーモアにあふれる共通性があることに気がつくると容子さんはおなかをかかえて笑って床を転げまわった。笑った。笑った。

明日はニーナ宅を抜け出して「米」を探しに行こう。寝たのは午前 3 時だった。

侑霞先生が個展を開催（4 月 14 日から神戸元町で）

「モルドバドキュメンタリー 2011」の表紙絵を描いている侑霞先生が個展を開催する。

侑霞 (YUCA) 展 KAWAZU-V

日時：2011 年 4 月 14 日(木)～19 日(火)

Am11:00～pm18:30 (最終日は 16:30 まで)

場所：OLD BOOKS & GALLERY SHIRASA (シラサ) 2 階

住所：神戸市中央区元町通 2-7-5 元町商店街 1 番街

兵庫県国際交流協会 20 周年記念シンポジウム開催

2011 年 2 月 15 日(火) ホテルオークラ神戸にてこれからの多文化共生社会などについて考えるシンポジウムが開催された。

シンポジウムは姜尚中・東京大学大学院教授による基調講演とパネルディスカッションの 2 部構成。

また、シンポジウムのオープニングイベントとして、桂三輝(かつら・さんしゃいん)・カナダ人落語家による英語落語があった。

阪神淡路大震災のあと、神戸から発信される安全安心文化は新しい時代の多文化共生社会を提示しているのではないかという趣旨の発言が多かった。

姜尚中氏は熊本出身の在日で日本人と結婚した。九州新幹線が完成し、九州を大きな経済圏と考えた場合、韓国の釜山との人事交流が東京などとは比べものにならないくらい重要になるだろう。現に釜山はフェリーでは博多、鹿児島まで本当に近い。九州は人材が必要であれば東京からではなく釜山から来てもらうという発想が必要だ。すると、これからは国と国が交流するのではなく地域と地域が交流する方が大事になるだろう。日韓トンネルは自動車と電車で日韓を結ぶ目的であるが、起きてくる問題を国家間ではなく地域間で解決する考え方が必要だ。そう私は聞いた。

基調講演・パネルディスカッション

姜尚中 東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授
パネルディスカッション

竹沢泰子 京都大学人文科学研究所教授

ネルケ無方 曹洞宗安泰寺住職

エドワード須本 ミックスルーツ関西代表